保健科学研究院長一行がメルボルン大学を訪問

9月4日（月）～7日（木）の間、戦略的国際連携先である豪州メルボルン大学（以下、「UoM」）医学・歯学・保健科学研究院を、保健科学研究院長の矢野理香副理事、環境健康科学研究教育センターの山内太郎センター長、保健科学研究院の澤村大輔教授、同研究院の宍戸　穂助教、国際連携機構の植村妙菜URAが訪問しました。両研究院の連携は、両校で2022年に立ち上げたマッチングファンドを起爆剤とし、高齢者医療、住環境における研究者交流が始まったことに起因します。両校連携のキックオフとなった2022年の「ヘルシーエイジングに係るバーチャルコンフェレンス」でもこれらのトピックが取り上げられ、互いの共通関心を広く認識していました。

今般の訪問では、本学保健科学研究院及び保健科学院とUoMの医学・歯学・保健科学研究院及び保健科学院の学術連携に係る部局間交流協定を締結し、医学・歯学・保健科学研究院で国際連携を担当するマイク・マガキン副研究院長、研究担当のアリシア・スピトル准研究院長、ノサル・グローバルヘルス研究所のキャシー・ヴォーン所長、ブルース・トンプソン保健科学院長、マリー・ゲルツ看護学科長、フィオナ・ドブソン理学療法学科長、アンドリュー・メータ検眼・視覚科学科長と、広く今後の連携の可能性を探る会談を行いました。

また、ヘルスケアシステムのデジタル化に伴う実装時に臨床現場で生じ得るトラブル検証を行う、健康デジタルトランスフォーメーションセンター、研究者派遣を行っている地域医療機関の一つ、オースティン・ヘルス、メルボルンブレインセンター、看護学科及び検眼・視覚科学科の教室を訪問し、教育現場を見学しました。訪問期間中には、澤村教授の検眼・視覚科学科、フローリー脳科学・メンタルヘルス研究所での2回の講演があり、広く関心のある研究者からのフィードバックが寄せられました。グローバルヘルスとコミュニティ連携、医療看護人材の労働力確保と業務管理、医療者自身の健康管理・労働環境改善、認知症やアルツハイマー病を含めた脳科学、高齢者のためのアライドヘルスケアと、広く研究連携の種があることを改めて意識し、今後の発展が期待される訪問となりました。

（保健科学研究院、国際連携機構）

トンプソン保健科学院長との部局間交流協定締結署名

マガキン医学・歯学・保健科学副研究院長と
矢野保健科学研究院長

研究連携を探る会談

澤村教授の講演